

平成22年8月6日

農薬登録情報（使用制限のかかるもの）

以下の農薬は、平成22年9月8日に使用制限となる登録の変更が予定されておりますので、関係機関等へ周知をお願いいたします。

登録番号	農薬名（商品名）	農薬の種類名	製造者名
第20106号	アプロードエースフロアブル	フェンピロキシメート・ブプロフェジン水和剤	日本農薬株式会社

■変更内容及び変更理由

【変更内容（今回の使用制限変更にかかる部分のみ）】

作物名「茶」の使用時期を「摘採14日前まで」から「摘採21日前まで」に変更する。

【適用表（今回の使用制限変更にかかる部分のみ）】

[変更前]

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フェンピロキシメートを含む農薬の総使用回数	ブプロフェジンを含む農薬の総使用回数
茶	クワシロカイガラムシ 若齢幼虫	1000倍	1000L/10a	摘採14日前まで	1回	散布	1回	2回以内
	チャノミドリヒメコバエ チャノホリガ チャノホリダニ チャノガサビダニ ミカンゲコナジラミ		200～ 400L/10a					

[変更後]

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フェンピロキシメートを含む農薬の総使用回数	ブプロフェジンを含む農薬の総使用回数
茶	クワシロカイガラムシ 若齢幼虫	1000倍	1000L/10a	摘採21日前まで	1回	散布	1回	2回以内
	チャノミドリヒメコバエ チャノホリガ チャノホリダニ チャノガサビダニ ミカンゲコナジラミ		200～ 400L/10a					

【変更理由】

登録維持に必要な追加の資料整備に時間と経費を要するため。

平成22年8月6日

農薬登録情報（使用制限のかかるもの）

以下の農薬は、平成22年9月8日に使用制限となる登録の変更が予定されておりますので、関係機関等へ周知をお願いいたします。

登録番号	農薬名（商品名）	農薬の種類名	製造者名
第17801号	ダニトロンフロアブル	フェンピロキシメート水和剤	日本農薬株式会社

■変更内容及び変更理由

【 変更内容（今回の使用制限変更にかかると部分のみ） 】

作物名「茶」の使用時期を「摘採14日前まで」から「摘採21日前まで」に変更する。

【 適用表（今回の使用制限変更にかかると部分のみ） 】

〔 変更前 〕

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フェンピロキシメートを含む農薬の総使用回数
茶	クワシロカイガラムシ	1000倍	1000 L/10a	摘採14日前まで	1回	散布	1回
	カンザワハダニ チャノミドリヒメコバエ チャノホリガ チャノホリダニ		400 L/10a				

〔 変更後 〕

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フェンピロキシメートを含む農薬の総使用回数
茶	クワシロカイガラムシ	1000倍	1000 L/10a	摘採21日前まで	1回	散布	1回
	カンザワハダニ チャノミドリヒメコバエ チャノホリガ チャノホリダニ		400 L/10a				

【 変更理由 】

登録維持に必要な追加の資料整備に時間と経費を要するため。

農薬登録情報(使用制限のかかるもの)一覧

<参考>

使用制限登録予定	区分	農薬種類名	商品名	制限内容(概要)	備考
9月22日	菌	トリフルミゾールくん煙剤	トリフミンジェット、 新富士トリフミンジェット	・作物名「とうがらし類」を削除し、「ししとう」に変更	
9月22日	菌	チオファネートメチル水和剤	トップジンMゾル、 ホクコートトップジンMゾル	・作物名「稲」の適用病害虫名「いもち病」の使用方法「散布」のうち、希釈倍数「500倍」を削除 ・作物名「稲」の適用病害虫名「変色米(エピコッカム菌)」の使用方法のうち、「散布」を削除	
9月22日	虫	エチルチオオトン粒剤	ダイシストン粒剤、 サンケイダイシストン粒剤、 TD粒剤	・作物名「トマト」、「きゅうり」、「なす」、「さやいんげん」*、「ごぼう」、「みつば」、「みかん」、「キャベツ」、「はくさい」、「すいか」、「採種用たまねぎ」、「きく」、「チュウリップ」、「ばら」、「ヒヤシンス」及び「ゆり」を削除 (*TD粒剤は適用無し)	作物名「トマト、なす、ごぼう、キャベツ、はくさい」について、本県防除指針に記載
9月22日	虫	イミダクロプリド水和剤	アドマイヤー顆粒水和剤、 クミアイアドマイヤー顆粒水和剤、 三共アドマイヤー顆粒水和剤、 ホクサンアドマイヤー顆粒水和剤	・作物名「たばこ」を削除	
9月22日	植調	ベンジルアミプリン塗布剤	塗布用ピーエー、 塗布用ペアニン	・作物名「メロン」「ゆうがお」を削除	
9月22日	虫	エチトン粒剤6	エチルチオオトン・ダイアジノン粒剤	・作物名「ばれいしょ」の使用量「6~9kg/10a」を6kg/10aに変更 ・作物名「ピーマン」、「キャベツ」及び「はくさい」を削除	

平成22年8月20日

農薬登録情報(使用制限のかかるもの)

以下の農薬は、平成22年9月22日に使用制限となる登録の変更が予定されておりますので、関係機関等へ周知をお願いいたします。

【登録変更となる薬剤】

登録番号	農薬名(商品名)	農薬の種類名	製造者名
第16644号	トリフミンジェット	トリフルミゾールくん 煙剤	日本曹達株式会社
第16645号	新富士トリフミンジェット	トリフルミゾールくん 煙剤	新富士化成薬株式会社

■ 変更内容及び変更理由

【変更内容】

(1) 作物名「とうがらし類」を削除し「ししとう」に変更する。

【適用表】

【変更前】

適用場所	作物名	適用病害虫等	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トリフルミゾールを含む農薬の総使用回数
温室、ビニールハウス等密閉できる場所	とうがらし類	うどんこ病	くん煙室容積400m ³ (高さ2m、床面積200 m ²)当り50g	収穫前日まで	5回以内	くん煙	5回以内

【変更後】

下線部を変更。

適用場所	作物名	適用病害虫等	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トリフルゾールを含む農薬の総使用回数
温室、ビニールハウス等密閉できる場所	<u>ししとう</u>	うどんこ病	くん煙室容積400m ³ (高さ2m、床面積200m ²)当り50g	収穫前日まで	5回以内	くん煙	5回以内

【変更理由】

登録維持に必要な追加の資料整備に経費と時間を要するため。

平成22年8月20日

農薬登録情報(使用制限のかかるもの)

以下の農薬は、平成22年9月22日に使用制限となる登録の変更が予定されておりますので、関係機関等へ周知をお願いいたします。

【登録変更となる薬剤】

登録番号	農薬名(商品名)	農薬の種類名	製造者名
第 14228 号	トップジン Mゾル	チオファネートメチル水和剤	日本曹達株式会社
第 14230 号	ホクコートップジン Mゾル	チオファネートメチル水和剤	北興化学工業株式会社

■ 変更内容及び変更理由

【変更内容】

- (1) 作物名「稲」の適用病害虫名「いもち病」の使用手法「散布」のうち、希釈倍数「500 倍」を削除する。
- (2) 作物名「稲」の適用病害虫名「変色米(エピコッカム菌)」の使用手法のうち、「散布」を削除する。

【適用表】

【変更前】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病	500～1000 倍	—	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内)
		原液	0.2L/10a			空中散布	
		4 倍	0.8L/10a			無人ヘリコプターによる散布	
	4～8 倍	散布					
	変色米(エピコッカム菌)	500 倍	—				
	墨黒穂病 紋枯病	1000 倍	—				

【変更後】

変色米(エピコッカム菌)の使用方式「散布」を削除及び下線部を変更。

作物名	適用 病虫害名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	チオファネートメチル を 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病	<u>1000倍</u>	—	収穫14日 前まで	3回以内	散布	3回以内 (種子への処 理 は1回以内)
		原液	0.2L/10a			空中散布	
		4倍	0.8L/10a			無人ヘリコプ ターによる 散布	
	変色米 (エピコッカム菌)	4~8倍					
	墨黒穂病 紋枯病	1000倍	—			散布	

【変更理由】

登録維持に必要な追加の資料整備に経費と時間を要するため。

農薬登録情報（使用制限のかかるもの）

以下の農薬は、平成22年9月22日に使用制限となる登録の変更が予定されておりますので、関係機関等へ周知をお願いいたします。

登録番号	農薬名（商品名）	農薬の種類名	製造者名
第13810号	ダイシストン粒剤	エチルチオメトン粒剤	バイエルクロップサイエンス株式会社
第13814号	サンケイダイシストン粒剤	エチルチオメトン粒剤	サンケイ化学株式会社
第20387号	T D 粒剤	エチルチオメトン粒剤	三井化学アグロ株式会社

■変更内容及び変更理由

【変更内容（今回の使用制限変更にかかると部分のみ）】

作物名「トマト」、「きゅうり」、「なす」、「さやいんげん」*、「ごぼう」、「みつば」、「みかん」、「キャベツ」、「はくさい」、「すいか」、「採種用たまねぎ」、「きく」、「チューリップ」、「ばら」、「ヒヤシンス」及び「ゆり」を削除する(*T D 粒剤は適用無し)。

【適用表（今回の使用制限変更にかかると部分のみ）】

[変更前]

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	子房オトを含む農薬の総使用回数		
みかん	ミカンコナカイガラムシ	15～20kg/10a	収穫30日前まで	2回以内	表土混和	2回以内		
さやいんげん*	インゲンガリハエ	4kg/10a	は種時	1回	植穴散布	1回		
きゅうり	アブラムシ類 アザミウマ類	2.5～5kg/10a (株当たり1～2g)	定植時		植穴散布			
すいか	アブラムシ類 ハダニ類	3～6kg/10a (株当たり 10～20g)			株元散布			
トマト	アブラムシ類 ハダニガリハエ	3～6kg/10a (株当たり 1～2g)			植穴処理土壌混和 又は播溝処理土壌混和			
なす	アブラムシ類 ハダニ類 テントウムシダマシ若 齢幼虫	2～4kg/10a (株当たり 1～2g)			播溝散布			
キャベツ	アブラムシ類	3～6kg/10a	は種又は 定植時		3回以内		散布	3回以内
はくさい	アブラムシ類 キジナミムシ	移植1株当たり1～2g 直播3～6kg/10a	は種時					
ごぼう	ゴボウネガリハエ	4kg/10a	収穫90日前まで					
みつば	ヒメフタテンヨコバイ	5kg/10a	収穫90日前まで	3回以内	散布	3回以内		
採種用たまねぎ	アザミウマ類	抽台期株当たり2～5g 花房施用開花後1花 房当たり0.2～0.5g	-	-	株元散布	-		
					花房散布			
きく	アブラムシ類 ハダニ類	株当たり0.8g			散布			
ばら	アブラムシ類	1鉢2g、1株当たり10g						
ゆり チューリップ ヒヤシンス	ネダニ アブラムシ類	1球当たり2g			床土混和			

(*T D 粒剤は適用無し)

〔 変更後 〕

適用表から削除する。

【 変更理由 】

登録維持に必要な資料整備に経費と時間を要するため。

平成22年8月20日

農薬登録情報（使用制限のかかるもの）

以下の農薬は、平成22年9月22日に使用制限となる登録の変更が予定されておりますので、関係機関等へ周知をお願いいたします。

登録番号	農薬名（商品名）	農薬の種類名	製造者名
第20342号	アドマイヤー顆粒水和剤	イミダクロプリド水和剤	バイエルクロップサイエンス株式会社
第20343号	クミアイアドマイヤー顆粒水和剤	イミダクロプリド水和剤	クミアイ化学工業株式会社
第20746号	三共アドマイヤー顆粒水和剤	イミダクロプリド水和剤	北海三共株式会社
第22669号	ホクサンアドマイヤー顆粒水和剤	イミダクロプリド水和剤	北海三共株式会社

■変更内容及び変更理由

【 変更内容（今回の使用制限変更にかかる部分のみ） 】

作物名たばこを削除する。

【 適用表（今回の使用制限変更にかかる部分のみ） 】

[削除部分]

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イミダクロプリド を含む農薬の 総使用回数
たばこ	アブラムシ類	10000倍	100~180 L/10a	収穫10日 前まで	1回	散布	2回以内 (植付時の 土壌混和は 1回以内、 散布は1回以内)

【 変更理由 】

登録維持に必要な追加の資料整備に経費と時間を要するため。

平成22年8月20日

農薬登録情報（使用制限のかかるもの）

以下の農薬は、平成22年9月22日に使用制限となる登録の変更が予定されておりますので、関係機関等へ周知をお願いいたします。

登録番号	農薬名（商品名）	農薬の種類名	製造者名
第11090号	エチメトン粒剤6	エチルチオメトン・ダイアジノン粒剤	日本化薬株式会社
第14603号	エチメトン粒剤6	エチルチオメトン・ダイアジノン粒剤	三井化学アグロ株式会社

■変更内容及び変更理由

【 変更内容（今回の使用制限変更にかかると部分のみ） 】

- ア. 作物名「ばれいしょ」の使用量「6～9kg/10a」を「6kg/10a」に変更する。
- イ. 作物名「ピーマン」、「キャベツ」及び「はくさい」を削除する。

【 適用表（今回の使用制限変更にかかると部分のみ） 】

【 変更前 】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチメトンを含む農薬の総使用回数	ダイアジノンを含む農薬の総使用回数
ピーマン	カガク	6 kg/10a	収穫45日前までは種時	1回	生育期 株元処理	1回	3回以内
はくさい	アブラムシ類		は種時又は定植時		播溝(植溝) 土壌混和		1回
キャベツ	アブラムシ類 カガク		2回以内				
ばれいしょ	アブラムシ類 ハダニ類	6～9 kg/10a	植付前	1回	植溝 土壌混和	1回	3回以内 (植付前の土壌混和は1回以内)

【 変更後 】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチメトンを含む農薬の総使用回数	ダイアジノンを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	アブラムシ類 ハダニ類	6 kg/10a	植付前	1回	植溝 土壌混和	1回	3回以内 (植付前の土壌混和は1回以内)

【 変更理由 】

登録維持に必要な資料整備に経費と時間を要するため。

平成22年8月20日

農薬登録情報（使用制限のかかるもの）

以下の農薬は、平成22年9月22日に使用制限となる登録の変更が予定されておりますので、関係機関等へ周知をお願いいたします。

登録番号	農薬名（商品名）	農薬の種類名	製造者名
第14656号	塗布用ビーエー	ベンジルアミノプリン塗布剤	クミアイ化学工業株式会社
第15299号	塗布用ベアニン	ベンジルアミノプリン塗布剤	株式会社理研グリーン

■変更内容及び変更理由

【 変更内容（今回の使用制限変更にかかると部分のみ） 】

農作物名から「メロン」「ゆうがお」を削除する。

【 適用表（今回の使用制限変更にかかると部分のみ） 】

[変更前]

作物名	使用目的	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ベンジルアミノ リンを含む農 薬の総使用 回数
メロン	着果促進	原液	100 果当り 1 ml	開花当日～開花翌日	—	果梗部に 塗布	1 花当り 1 回
かぼちゃ ゆうがお				開花前日～開花当日			

[変更後]

作物名	使用目的	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ベンジルアミノ リンを含む農 薬の総使用 回数
かぼちゃ	着果促進	原液	100 果当り 1 ml	開花前日～開花当日	1 花当り 1 回	果梗部に 塗布	1 花当り 1 回

【 変更理由 】

登録維持に必要な追加の資料整備に経費と時間を要するため。

7 アブラムシ類

A 生態と防除のねらい

- 1 一般にワタアブラムシ、モモアカアブラムシの寄生が多い。トマトやバレイショでは、ジャガイモヒゲナガアブラムシやチューリップヒゲナガアブラムシも寄生する。
- 2 有翅虫の発生は春と秋に多く、これが作物に移動飛来してくる。
- 3 被害は、ウイルスの媒介及び排泄物に発生するすす病による光合成阻害、果実の汚れが大きい。

B 耕種的防除法等

- 1 幼苗期には防虫ネットで被覆し、有翅虫の寄生を防止する。
- 2 プラスチックシルバーフィルムやシルバーストライププラスチックフィルムでマルチを行う。または、シルバーテープを畝上に張ることも有効である。

C 薬剤防除法

1 トマト

1) 粒剤処理

系統名・農薬名	一般名
有機リン系	
TD粒剤	エチルチオメトン粒剤
ダイニストン粒剤	エチルチオメトン粒剤
ネオニコチノイド系	
アドマイヤー1粒剤	イミダクロプリド粒剤
アルバリン粒剤	ジノテフラン粒剤
スタークル粒剤	ジノテフラン粒剤
ダントツ粒剤	クロチアニジン粒剤
ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤
モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤

2) 茎葉散布

系統名・農薬名	一般名
有機リン系	
オルトラン水和剤	アセフェート水和剤
ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤
マラソン乳剤	マラソン乳剤
ピレスロイド系	
マブリック水和剤20	フルバリネット水和剤
ロディー乳剤	フェンプロバトリン乳剤
ネオニコチノイド系	
アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤
モスピラン水溶剤	アセタミプリド水溶剤
その他	
チェス顆粒水和剤	ピメトロジン水和剤

2 ミニトマト

1) 粒剤処理

系統名・農薬名	一般名
ネオニコチノイド系	
アドマイヤー1粒剤	イミダクロプリド粒剤
アルバリン粒剤	ジノテフラン粒剤
スタークル粒剤	ジノテフラン粒剤
ダントツ粒剤	クロチアニジン粒剤
ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤
モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤

2) 茎葉散布

系統名・農薬名	一般名
有機リン系	
ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤
ネオニコチノイド系	
アドマイヤー顆粒水和剤	イミダクロプリド水和剤
モスピラン水溶剤	アセタミプリド水溶剤
バリアード顆粒水和剤	チアクロプリド水和剤
その他	
チェス顆粒水和剤	ピメトロジン水和剤
サンヨール	DBEDC乳剤

3 ナス

1) 粒剤処理

系統名・農薬名	一般名
有機リン系	
FD粒剤	エチルチオメトン粒剤 削除
ダイニスト粒剤	エチルチオメトン粒剤 削除
ネオニコチノイド系	
アクタラ粒剤5	チアメトキサム粒剤
アドマイヤー1粒剤	イミダクロプリド粒剤
アルバリン粒剤	ジノテフラン粒剤
スタークル粒剤	ジノテフラン粒剤
ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤
モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤

2) 茎葉散布・くん煙処理

系統名・農薬名	一般名
有機リン系	
マラソン乳剤	マラソン乳剤
ピレスロイド系	
トレボンEW	エトフェンプロックス乳剤
トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤
マブリック水和剤20	フルバリネート水和剤
ロディー乳剤	フェンプロバトリン乳剤
ネオニコチノイド系	
アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム水溶剤
アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤
アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤
スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤
モスピランジェット	アセタミプリドくん煙剤
モスピラン水溶剤	アセタミプリド水溶剤
その他	
ウララDF	フロニカミド水和剤
チェス顆粒水和剤	ピメトロジン水和剤

(2) 害虫の部

1 アブラムシ類

A 生態と防除のねらい

- 1 ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシの3種が寄生する。
- 2 ニセダイコンアブラムシは、夏から秋にかけて多く発生する。黄緑色で薄い白粉を背面に帯びている。ダイコン、ハクサイ、カブなどに寄生が多く、キャベツでは比較的少ない。
- 3 モモアカアブラムシは、有翅虫の飛来は4月頃から認められる。春季のピークは4月下旬～5月中旬で6月上旬以降少なくなり、9月下旬以降再び増加する。寄生はアブラナ科、ナス科野菜など200種に及ぶ。
- 4 ダイコンアブラムシは、春から初夏にかけて多くなる。黄緑色で白粉で覆われ白く見える。キャベツでの発生が多く、ダイコン、ハクサイでは少ない。
- 5 防除は他害虫との同時防除を考慮し、特にダイコン等ではモザイク病予防のため、発生初期から有翅アブラムシの防除に努める。

B 耕種的防除法等

- 1 プラスチックシルバーフィルムやシルバーストライププラスチックフィルムなどのマルチにより有翅虫の飛来を防ぐ。
- 2 障壁作物によって有翅虫の飛来を防ぐ。

C 薬剤防除法

1 キャベツ

1) 粒剤処理

系統名・農薬名	一般名	
有機リン系		
TD粒剤	エチルチオメトン粒剤	削除
タイシストン粒剤	エチルチオメトン粒剤	削除
オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	
ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	
カーバメート系		
オンコル粒剤5	ベンフラカルブ粒剤	
ネオニコチノイド系		
モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	

2) かん注処理

系統名・農薬名	一般名
アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤
スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤

3) 茎葉散布

系統名・農薬名	一般名
有機リン系	
オルトラン水和剤	アセフェート水和剤
ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤
マラソン乳剤	マラソン乳剤
ピレスロイド系	
トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤
マプリック水和剤20	フルバリネート水和剤
ネオニコチノイド系	
アドマイヤーフロアブル	イミダクロプリド水和剤
モスピラン水溶剤	アセタミプリド水溶剤
ピレスロイド系・有機リン系	
ハクサップ水和剤	フェンバレレート・マラソン水和剤

2 ハクサイ

1) 粒剤処理

系統名・農薬名	一般名	
有機リン系		
TD粒剤	エチルチオメトン粒剤	削除 削除
ダイシストン粒剤	エチルチオメトン粒剤	
オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	
カーバメート系		
オンコル粒剤5	ベンフラカルブ粒剤	
ネオニコチノイド系		
モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	

2) 茎葉散布

系統名・農薬名	一般名	
有機リン系		
オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	
ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	
マラソン乳剤	マラソン乳剤	
ピレスロイド系		
トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	
マブリック水和剤20	フルバリネート水和剤	
ネオニコチノイド系		
アドマイヤーフロアブル	イミダクロプリド水和剤	
モスピラン水溶剤	アセタミプリド水溶剤	
ピレスロイド系・有機リン系		
ハクサップ水和剤	フェンバレレート・マラソン水和剤	

3 ダイコン

1) 粒剤処理

系統名・農薬名	一般名	
有機リン系		
TD粒剤	エチルチオメトン粒剤	
ダイシストン粒剤	エチルチオメトン粒剤	
オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	
ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	
ネオニコチノイド系		
アドマイヤー1粒剤	イミダクロプリド粒剤	
モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	

2) 茎葉散布

系統名・農薬名	一般名	
有機リン系		
オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	
ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	
マラソン乳剤	マラソン乳剤	
ピレスロイド系		
トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	
マブリック水和剤20	フルバリネート水和剤	
ネオニコチノイド系		
アドマイヤーフロアブル	イミダクロプリド水和剤	
モスピラン水溶剤	アセタミプリド水溶剤	
ピレスロイド系・有機リン系		
ハクサップ水和剤	フェンバレレート・マラソン水和剤	

2 ハクサイ

1) キスジノミハムシ

a) 粒剤散布

農薬名	一般名	
T D 粒剤	エチルチオメトン粒剤	削除
ダイシストン粒剤	エチルチオメトン粒剤	削除

b) 茎葉散布

農薬名	一般名
エルサン乳剤	P A P 乳剤

2) キスジノミハムシ成虫

a) 茎葉散布

農薬名	一般名
サイアノックス乳剤	C Y A P 乳剤
ディプテレックス乳剤	D E P 乳剤

3 ダイコン

1) キスジノミハムシ

a) 粒剤処理

農薬名	一般名
T D 粒剤	エチルチオメトン粒剤
ダイシストン粒剤	エチルチオメトン粒剤
アルバリン粒剤	ジノテフラン粒剤
スタークル粒剤	ジノテフラン粒剤
オンコル粒剤 5	ベンフラカルブ粒剤
ガゼット粒剤	カルボスルファン粒剤
フォース粒剤	テフルトリン粒剤

b) 茎葉散布

農薬名	一般名
エルサン乳剤	P A P 乳剤
ハチハチ乳剤	トルフェンピラド乳剤

2) キスジノミハムシ成虫

a) 茎葉散布

農薬名	一般名
サイアノックス乳剤	C Y A P 乳剤
ディプテレックス乳剤	D E P 乳剤

9 オオタバコガ

A 生態と防除のねらい

- 1 本種は、6月から増え始め、年4～5回発生する。発生量は9～10月に最も多くなる。
- 2 成虫は点々と産卵するため、株当たりの幼虫数は1～数頭と少ない。しかし、幼虫は結球部に潜り、食害するので被害が大きい。
- 3 幼虫の体表面には粗い毛が肉眼で確認でき、ヨトウガ、ハスモンヨトウの幼虫と区別できる。
- 4 株当たりの幼虫数が少ないため、初期の被害を見つけるのは困難である。フェロモントラップなどを用いて成虫の発生時期、量の把握に努める。
- 5 幼虫は、結球部に潜り食害するため、薬剤の効力があがりにくい。結球が早い品種では、防除時期に注意を要する。

4 ほ場での発生は不均一で、一般にほ場周辺で多く、特に、前年のゴボウ跡地や雑草の繁茂する畦畔に面する場所が多いので、これらを含めた広域防除が必要である。

2) サビヒョウタンゾウムシ

- 1 南西暖地での生態は十分明らかでないが、本種は内陸部の砂質土壌地帯で発生が多い傾向があり、発生経過、加害状況及び寄生植物等はハイイロサビヒョウタンゾウムシに類似している。
- 2 年1回の発生で、前年作付ほ場の畝内、残存株元及び畦畔雑草の株元などで成虫で越冬し、3月中旬頃から地上へ出現する。ゴボウほ場への侵入は4月上旬頃から始まり、侵入及び産卵は6月末まで続く。
- 3 前年作付ほ場の土壌消毒は、越冬成虫の密度低減に有効である。
- 4 ふ化幼虫が地中に潜入してからでは防除効果が上がらないので、防除は越冬成虫の産卵防止をねらって行う。
- 5 その他は、ハイイロサビヒョウタンゾウムシに準ずる。

3) ワモンヒョウタンゾウムシ

- 1 年1回の発生で幼虫または成虫態で土壌中で越冬する。
- 2 成虫は4月頃から活動を始め、5～6月が最も多い。
- 3 成虫はゴボウの新葉、新芽を好んで食害するので、春季の発芽初期の被害が大きい。
- 4 幼虫によるゴボウ根部の被害は8月以降掘取りのものに多い。
- 5 幼虫は主根の皮層部を不規則に食害するので、外観が著しく損なわれる。
- 6 越冬世代成虫を防除して産卵防止をはかる。

B 耕種的防除法等

- 1 ほ場周辺の雑草を刈り取り、環境の整備を行う。
- 2 新生幼虫による被害を回避するため、できるだけ早めに収穫する。
- 3 連作を避ける。
- 4 ヒョウタンゾウムシ類は後翅が退化し、移動は歩行のみによるので、畦畔板等の障壁による成虫のほ場内侵入防止を組み合わせると効果が高い。

C 薬剤防除法

- 1 ゾウムシ類
 - 1) 茎葉散布

農薬名	一般名
ノーモルト乳剤	テフルベンズロン乳剤

1 1 ゴボウネモグリバエ

A 生態と防除のねらい

- 1 幼虫態で越冬し、2月下旬～3月に蛹化する。第1世代成虫の最盛期は4月下旬～5月上旬、第2世代は6月中旬、第3世代は7月下旬で以降10月下旬まで発生し、年5回発生する。
- 2 成虫は地際葉柄の表皮下に産卵し、幼虫は根部に潜孔加害する。

B 耕種的防除法等

- 1 ほ場周辺の雑草を除去する。
- 2 新生幼虫による被害を回避するため、早めに収穫する。

C 薬剤防除法

- 1 粒剤処理

農薬名	一般名	
T-D粒剤	エチルチオメトン粒剤	削除
ダイシストン粒剤	エチルチオメトン粒剤	削除